聖書日課『からし種』2024.1.21－1.28

1月21日 （日） 詩編 68編	**「この神はわたしたちの神、救いの御業の神／主、死から解き放つ神」（21節）。**旧約の人々が思い描いた「この神」は、「御自分の敵の頭を打ち（22節）」、「わたしたち」だけを救ってくれる神であった。しかしキリストの十字架によってあらわされた「この神」の真実は、御自分の命を全ての人に分け隔てなく与え、命の奪い合いから解き放ってくださる神である。
22日 （月） 詩編 69編	**「天よ地よ、主を賛美せよ／海も、その中にうごめくものもすべて。神は必ずシオンを救い／ユダの町々を再建してくださる」（35―36節）。**旧約の人々の信じる救いは自国だけの救いであったけれども、諸国に散らされて嘲り、恥、屈辱を受けながらも「主は必ず救ってくださる」と堅く信じる信仰には心打たれる。私は「主は必ず！」と言えるほど信じているだろうか。
23日 （火） 詩編 70編	**「神よ、わたしは貧しく、身を屈めています。速やかにわたしを訪れてください。あなたはわたしの助け、わたしの逃れ場。主よ、遅れないでください」（6節）。**「心の貧しい人々は、幸いである（マタイ5：3）」という祝福は、この詩編のような心境と祈りにある人のことだろうか。イエスの教えは旧約の人々の歴史的な信仰の痛みをも抱き、癒そうとしていたのだと思う。
24日 （水） 詩編 71編	**「わたしは常に待ち望み／繰り返し、あなたを賛美します。わたしの口は恵みの御業を／御救いを絶えることなく語り／なお、決して語り尽くすことはできません」（14―15節）。**多くの詩編は個人ではなく、旧約の信仰共同体を代表した詩のように思う。強国に支配され恐怖と屈辱に苦しみながら、ひたすら主を賛美し、主の御業を語り伝え続けたのだろう。

メール配信登録メール　senfkorn.obc@gmail.com　　大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課『からし種』2024.1.21－1.28

25日 （木） 詩編 72編	**「王が正しくあなたの民の訴えを取り上げ／あなたの貧しい人々を裁きますように。山々が民に平和をもたらし／丘が恵みをもたらしますように」（2―3節）。**荒廃した祖国でか、散らされた異国でか、かつてのソロモン時代の平和と繁栄を偲んで歌った詩なのだろう。このような理想の王を救い主として待ち望む人々の中に、神は独り子イエスを送られた。
26日 （金） 詩編 73編	**「わたしの肉もわたしの心も朽ちるであろうが／神はとこしえにわたしの心の岩／わたしに与えられた分」（26節）。**今日からの詩編は、ダビデ時代の詠唱者アサフを名乗る詩人の作で、苦難にある共同体を代表して神に訴える。神による悪の裁きと弱者の救いを見られないまま死んで行くかも知れないが、それでも見えない神への信仰に支えられて生きると歌う。
27日 （土） 詩編 74編	**「神よ、なぜあなたは／養っておられた羊の群れに怒りの煙をはき／永遠に突き放してしまわれたのですか」（1節）、「あなたの鳩の魂を獣に渡さないでください」（19節）。**共同体の人々を神の羊や鳩にたとえて憐れみを乞う、愛をもっての嘆願。十字架のキリストをいただいた今は、「わたしたち」だけでなく、全ての人々が神の羊であり鳩であると知る。
28日 （日） 詩編 75編	**「わたしは必ず時を選び、公平な裁きを行う」（3節）、「わたしは驕（おご）る者たちに、驕（おご）るなと言おう。逆らう者に言おう。角をそびやかすなと」（5節）。**「角」は栄誉を意味する。神が目の前におられることを忘れ、自らの頭に「角をそびやかしているわたし」がいないだろうか。「角を高く上げる」（11節）のは「人ではなく神である」ことを覚える主の日とされて。

大井バプテスト教会